



10月5日の日曜日、うわしま土曜塾第2回**全体研修会**を市役所で行いました。約40名のスタッフが集まり、上半期をふり振り返りながら、これからの取組について話し合いました。後半はグループに分かれ、教える者にとって永遠の課題である「塾生の学習意欲を高めるための工夫」というテーマで、熱心に議論をしました。下記はその意見の一部です。



- ワークの活動を長時間続けるのは意欲が長続きしないので、例題の一斉指導をして、その後、個別にミニテスト、そしてワークのように形態を変化させる。
- どこで何が原因でつまづいているのかを見極める。言葉でやりとりをしながら、自分の考え方や思いを他の塾生に聞いてもらう。それによって、眠っているやる気を引き出す。
- 図を描いて考えさせたり、想像を膨らませて、勉強に対しての興味関心につなげる。
- 真面目すぎるがゆえ、疲れている塾生はリラックスさせる。
- ほめる。友だちの励ましや注意がやる気を促すこともある。やんちゃな子も嫌がらずに来るだけでもいい。

## 高2の夏、九州自転車旅



自由な時間や心を持っていた若い日の旅を、再び自由になった退職後の今、もう一度したいなと私も思います。

今から47年前のこと。高校2年の夏休み、同じクラスの友達と2人、南九州を自転車で巡った。宇和島を出発し、八幡浜からフェリーに乗り、大分臼杵（うすき）へ。そこから、主要国道を通過して南下。宮崎、鹿児島、天草を通過して熊本市内へ入り、熊本城や水前寺公園、そして阿蘇に上がり、別府へと巡った。準備といえば、数日分の着替え、少しばかりのお金、道路地図、友達から借りた重い黄色い三角テントぐらいだったような……。あまり細かな計画も立てず、とりあえず行く。何泊になるのか、どこに泊まるのか、いつ帰ってくるのかさえ決めず、行き当たりばったりのいい加減な旅だった。今と違ってナビゲーションもない、携帯電話もない時代、親からすれば何と不安だったことだろう。親になって考えるとよく無謀なことを許したものだと思った。

道中、道路地図とにらめっこしながら、坂道はきつい、30分走ったら休憩しよう、あと何kmは行ける、どの辺りでテントを張ろうか、そんな会話をよくしたような気がする。爽快な風を感じながら、ハアハアいいながら無心になってペダルを漕いだものだ。すれ違う自転車に右手を挙げ、互いにエール交換し合う、そんな場面が幾度となくあった。

退職をして時間に余裕ができた。ふとあの夏のことを思い出し、道中を辿ってみようかなと3年前の夏、自転車からバイクに乗り換えて、1人記憶を辿りながら南九州を巡った。半世紀近くも前のことであり、道路状況も変わっていたが、感慨深いものがあった。

自分にとって、世界が広がった高校2年の夏だった。

中里伝吉先生（岩松教室）